

地球の靴を履く

誰も、何も
取り残さない
地球にするには？
No one left behind

私とSDG s Part 3 AKINO ZAMA



画像 World Oceans Day Clean up at Lagun Bay | InfoBonaire

目次

「地球の靴を履く」とは	2
私の活動の歴史	3
貧困と教育	4
生理の貧困	1 5
豊岡市の地方創生	2 5
紛争地域支援	3 8
プラスチックから環境を守る	5 1
砂をどうやって守るか	5 5
わたしはなぜSDGsに取り組みたいのか	5 7



「地球の靴を履く」とは？

「地球の靴を履く」とは、SDGs活動に於いて、私が大切にしている考え方です。

プレイディみかこさんの本、「ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー」で有名になった「他人の靴を履く」というイギリスの諺があります。

相手の立場になって考える、ということです。

地球の立場になって考えてみれば、おのずと、人と環境を大切にできると思っています。

みなさんも、一緒に地球の靴を履いてみませんか？



画像<https://myethicalchoice.com/journal/ethical/ethical-sneakers/>

私の活動の歴史

みなさんは、SDG s というと、何を浮かべますか？
リビエラリゾートにいらっしゃる方であれば海の保全が中心かもしれません。

私が所謂、SDG s 活動を始めたのは、4 年前の中 1 の時でした。
SDG s のワークショップに参加し、17 の目標と 169 のターゲットを知りました。
その頃はまだ言葉も普及していませんでしたが、
最近では知らない人はいない活動となりました。

しかし、教会の日曜学校に通っていた私は、東日本大震災の支援などを早くからはじめており、
これは私の SDG s 活動の原点だと思っています。

みなさんも、赤い羽根募金や、あしながおじさん募金など身近な募金活動は長い間かかわってきていると思います。

つまり、「SDG s」という言葉に関わらず、「誰一人とりのこさない」活動は身近にあったと考えています。

それらを踏まえ、私に関わってきた記録をまとめました。

貧困と教育



日本の相対的貧困



日本では6，7人に一人が貧困です。

小3の時、私はこの事実を知り衝撃を受けました。

通常、「発展途上国など衣食住、衛生など生きる上で必要な条件を満たしていない」貧困を想像する方が多いでしょう。これは、絶対的貧困と言います。

日本が直面している貧困とは、「相対的貧困」といい、「その国や地域の水準と比較して、より貧しい状態」、所得が平均的所得より大きく低い世帯を指します。

OECD（経済協力開発機構）によると、加盟している先進国34か国中、日本は10番目に相対的貧困率が高い結果が出ています。



負のサイクル

私は、東日本大震災の被災者に向けて教会で募金を始めた時、初めて、日本の貧困について知りました。まさか自国に貧困があるとは思ってもよらなかったからです。

貧困には、負のサイクルがあります。学力差が経済格差を生むというデータがあります。現在日本では学校以外に習い事、塾といった学校外教育が主流です。

貧困と言われる世帯では、学校外教育の機会を失う子どもが多く、全世帯の大学進学率が73.2%に対し、生活保護世帯では、33.1%に落ち込みます。学力差や経済差で大学進学が叶わなかった場合、高卒で働くことになります。

大学卒との給与差があり、その人が大学卒の社員が新入社員で入社してくる年齢になっても、その人たちの給与は低い状態で、生涯年収は8000万円以上にもなるそうです。

支援団体



そこで私は、チャンス・フォー・チルドレン（CFC）という団体に寄付をすることにしました。人を集めて寄付をお願いしたり、古本を売って寄付をしています。

このチャンス・フォー・チルドレンは、「家庭の経済格差による子どもの教育格差を解消し、貧困の世代間連鎖を断ち切ることを目的」とする団体で、経済的な困難を抱えるこどもたちに塾や習い事、体験活動等で利用できるスタディクーポンを提供しています。

子どもの貧困への支援にはいろいろな団体がありますが、ここは特に「教育格差の是正」に取り組んでいることから、私はこの団体を選びました。

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン





支援方法



これは、以前にも紹介させていただいた新聞記事です。みんなで集まって、寄付を募ったときの写真です。集まった多くの方が、寄付をしてくださり大きな金額をチャンス・フォー・チルドレンにお渡しすることができました。

東日本大震災から10年以上が経ち、みなさんの関心は薄れていませんか？

大事なのは支援の継続だと、チャンス・フォー・チルドレンの代表者、今井氏もおっしゃっています。私が仙台に行ったときはすでに、街がきれいになっていましたが、まだプレハブ住宅に住んでいる人はいらっしゃるそうです。

今井さんによると被災地での学力低下が顕著で、支援が必要だと訴えています。私もあらためて寄付をしましたが、寄付という形以外でもこうやって文章にするなど啓蒙活動も支援の一環だと思っています。

見えにくい実態

1 貧困を
なくそう



4 質の高い教育を
みんなに



私は、コロナ感染症がまん延する前、チャンス・フォー・チルドレンでスタディクーポンを受け取る受賞式が仙台で行われた時に現地を訪ねました。

仙台の駅周辺はとても整備されており、会場もきれいな場所でまだ復興が進んでいないという様子には見えませんでした。



受賞式でクーポンを受け取った子どもたちのコメントが発表されましたが、被災の悲惨な様子などは生々しくリアリスティックでしたが、一方で本当にこの人たちが、7人に1人という貧困の中に入る人たちなのか全く理解ができませんでした。

しかし、CFCの理事長の今井さんによると、そこに日本の貧困の問題点があるそうなのです。

画像<https://wadal.sendai-pics.com/2019/04/18/post-3786/>

見えにくい実態 2

1 貧困をなくそう



4 質の高い教育をみんなに



2017年2月に放映されたNHKスペシャルによると、日本の貧困は見えにくいそうです。

例えば、アルバイトや情報を得るため、または親が仕事で家を留守にするための連絡手段でもあるスマホは困窮度が高い家でも6割以上もっています。子どもに必要な、ゲーム、自転車なども持っているそうです。しかし、実態は部活の用品や本が買えない家庭が多いそうです。

2017年2月12日(日) 午後9時00分～9時49分
見えない“貧困”～未来を奪われる子どもたち～ より



1 貧困を
なくそう



4 質の高い教育を
みんなに



日本の経済的損失



子どもの相対的貧困を放置した場合、進学率が下がり、非正規雇用となる可能性が高くなります。

日本財団によると、そうなることにより多くの人の収入が下がり、42.9兆円の社会的損失になるそうです。これは日本の経済に大きな打撃になると考えます。自治体で貧困調査を実施し、必要な支援をしなければなりません。

私の学校がある渋谷区では、チャンスフォーチルドレンと組んで、貧困家庭への教育支援を行っています。

こういった自治体が増えるべきだと考えます。

剥奪指数



私が、仙台に行った時、会場で貧困という言葉や、自分の学校名を出さないように言われました。

私の学校は駅伝などで有名なため、華やかに見えるとよく言われます。
ふつうに毎日、通学できることさえ、恵まれていると気づかされました。
また、自分が当たり前だと思っていることでも、配慮した言動をしなければいけないと
気づき、逆に辛い気持ちになりました。

私は、この時、貧困の状況を示す集計的指標である「剥奪指数」というものを始めて知りました。

「1日3食食べることができるか」、「修学旅行に参加できるか」などの生活に必要な
ことが、経済的な理由で享受できない場合を調査するそうです。所得だけでは測れない
生活の質を把握するそうです。

心の支援



私の住む大田区で、自己肯定感を調べる調査がありました。貧困と言われる家庭の子ども（小5が対象）は自己肯定感が低いという結果がでていました。教育の支援だけでなく、心の支援も必要だということです。

NHKスペシャルのURL

<https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLPM3/blog/bl/pneAjJR3gn/bp/p2ee4B3oJ2/>

【大田区の実態調査】

剥奪指標

区が支援が必要な世帯 21%（収入では問題ないが支援が必要なケースもある）

子どもの自己肯定感が奪われる

がんばれば報われる、自分には価値があると思うかに「思わない」と。



支援団体を見つける

日本の貧困を助ける団体は調べるといくつもあります。

海外の貧困も支援したいですが、まずは自国から、と思っています。

自分に合った団体を探してみるところから支援が始まります。私は、引き続き、チャンス・フォー・チルドレンの支援を継続します。



公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン



生理の貧困





生理の貧困とは

生理の貧困ということばを聞いたことはありますか？

少し、抵抗があるテーマなのですが、敢えて私はこの活動に一石を投じています。

私がこの実態を知ったのは、2021年サンリオピューロランド主催で国連の「Let'sTalk」というスピーチコンテストに参加したからです。

テーマは女性のクオリティオブライフの向上で、特にタブーである生理が大きな課題に掲げられていました。





実態

調べると、「生理の貧困」という衝撃的な言葉に行きつきました。
経済的な理由などで、生理用品を十分に入手できない状態を指します。

また国際NGOプラン・インターナショナルが行ったアンケートによると
15歳から24歳で、家族の無理解や羞恥心も入手できない理由となっているそうです。





認知度

私は、このスピーチ大会で優勝をし、ユーチューブの配信などを経て、わずかながら、生理の貧困を啓蒙する役割を担ったと思います。

私は、渋谷区長にも手紙を書きました。渋谷区も積極的に活動すると返事をいただきました。コロナ禍で貧困家庭が増え、この問題は深刻になりつつある一方で、認知度も高まっており、東京都ではすべての都立学校の女子トイレに生理用品を設置しているそうです。



授賞式でキティちゃんと

1 貧困を
なくそう



3 すべての人に
健康と福祉を

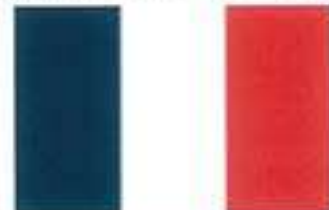


海外との違い

驚いたのはスピーチ大会で一緒になった北欧の学校に通う子の話でした。
北欧ではふつうに生理用品がトイレに設置され、日本のように恥ずかしがらずに持ち運びをしているそうです。

そういった国では生理の貧困などという概念がないようです。（偶然にもその人は友人の従姉で今でも交流が続いていますが北欧との文化の違いにいつも驚かされています。）

Ideas for good によると、スコットランドは世界で初、生理用品を無償提供する法律が施行されました。ニュージーランドやフランスでも学校で無償配布されています。





自治体の動き

最近では、日本でも最近自治体による動きがでていますが、スピーチコンテストがあった当時は日本ではまだまだ立ち遅れていて欧米との差を感じました。

生理用品が買えないばかりに、体育を休まざるをえなかったり、学校に行けない生徒がいる事実を誰が知っていたでしょう？

まだまだ、抵抗がある概念ですが、多くの人の理解を求めていきたい課題です。

2021年4月3日朝日新聞





被災地、救援物資



2022年8月19日 朝日新聞

私が東日本大震災の支援のことを調べているときにも、本当に必要だったのに生理用品を配るのは不謹慎ということになり配られなかった、という記事を目にしたことがあります。

もちろん、渡す側も受け取る側も日本では羞恥心もあり難しい支援物資です。しかし、トイレットペーパーが必要なように生活必需品であることを理解しなければいけません。

写真は、まさに避難所の現実を目の当たりにした記事です。



戦争地域、救援物資



年4月、JICA（国際協力機構）で「協力隊まつり」というイベントがありました。

私は、「生理の貧困」をテーマにオンラインでMCをさせていただきました。

その時、スイスから参加してくださった方が、ウクライナへの支援でもやはり生理用品が足りず、ポーランド国境まで沢山買って車でもっていったという話を聞きました。

トイレットペーパー、おむつと並んで大事な救援物資ということをお忘れてはいけません。

オイテル OiTr



渋谷の109では、SHIBUYAエンタテインメントの若者研究機関SHIBUYA109Labが生理用品を無料で配布するオイテルという仕組みを導入しました。これは「Z世代の生理に対する意識調査」の結果をもとに、「生理の貧困」に取り組むイベントを実施しました。



画像 PRtimes

オイテルを利用するにはQRコードを読み取ってスマホのアプリと連動させる必要があります。

若者が安心して手に取れる画期的試みだと思います。

起業機会



私は、10月に東大メタバース工学部の起業クラスで学んでいました。

その際、東大大学院で「生理ケアを社会的責任に」という理念を掲げて起業した方のお話を伺うことができました。オモテテという会社を設立したそうです。会社の主旨はだれでも安心してでかけられるように、仕組みをいたるところに導入する、だそうです。生理用品が買えずに困っている人の支援にもなると思いました。

逆転の発想で、困っている人たちを助けることを見つけたら、ビジネス展開をしていく発想には目から鱗でした。

サンリオピューロランドでは使わなくなった生理用品を集めて配布することも行われていました。私もできることから始めます。



豊岡市の地方創生



前市長との交流

私は、地方創生の一環で兵庫県豊岡市の前市長と交流があります。

貧困問題、いじめ問題の他、絶滅危惧種コウノトリを復活させた生物多様性を重んじる環境への取り組みなど多くのことを教えていただきました。

実施に豊岡市へ足を運び、市長室で市長と会い、多くの話をしています。

市長とのインタビューや交流を通して知ったことをぜひみなさんにも知っていただきたくまとめます。



市長室にて前市長と 絶滅危惧種コウノトリ郷公園にてコウノトリと



豊岡エコバレー

豊岡市では「小さな世界都市」～Local & Global City～を実現するため、6つの分野で目標を定め、実現に向けてさまざまな取り組みを行っています。

- ①環境都市「豊岡エコバレー」を実現する（シリコンバレーをまねているそうです。）
- ②受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐ
- ③芸術文化を創造し、発信する
- ④内発型の産業構造を創る
- ⑤多様性を受け入れ・支え合うリベラルな気風が満ちている
- ⑥「小さな世界都市」の市民を育てる

演劇を通した教育

1 貧困を
なくそう



4 質の高い教育を
みんなに



豊岡市は「演劇の街」として町おこしに取り組んでいます。
単なる演劇が盛んなまちではなく、社会や生活の様々な場面に、演劇や演劇的なものの考え方などが染み込んだ街を目指しています。

演劇は非認知能力や学力を向上させる効果があるそうです。小学校の授業にも演劇があります。

市長は、「いじめっこ」と「いじめられっこ」を演じることでいじめが減ったとおっしゃっていました。

「他人の靴を履く」ことを自然と身に着けた結果だと感銘を受けました。

非認知能力



前中貝市長曰く、演劇を通した「非認知能力向上プロジェクト」は、貧困対策が起点となっています。貧困のサイクルを断つために、貧困状況にある子供の学力を保証しなければならない、そのための環境を整備しようと考えた市長は、非認知能力を向上させることの重要性に気づきました。

アメリカの研究で、学力以前に非認知能力自体が「生きる力」に必要であるという結果もでているそうです。

ここで重要視したのが、忍耐力、自制心、協働性です。

これらを演劇によって培うというプロジェクトで演劇の神様といわれる平田オリザさんを中心に活動を行っています。



平田 オリザ（劇作家・演出家・青年団主宰 城崎国際アートセンター 芸術監督）

絶滅危惧種コウノトリ

15 県の豊かな自然を
守ろう



コウノトリ は世界でも約3,000羽しかいない希少な鳥。日本では特別天然記念物に指定されています。

「赤ちゃんを運んでくる」という伝説は、元々コウノトリによく似たヨーロッパのシュバシコウという鳥にまつわるものですが、幸せの象徴として様々なシーンに登場します。

一旦ペアになると一生添い遂げるという仲の良さ、オスとメスが交替で卵をあたため子育てをする姿が微笑ましく映るせいかもしれません。
(豊岡ツーリズムより)

しかし、1971年、日本の空から一度消えてしまいます。



画像 <https://toyooka-tourism.com/>



コウノトリ復活プロジェクト

最後の生息地であった豊岡市では、もう一度コウノトリをはばたかせようと野生復帰計画がスタート。渡り鳥であるコウノトリに国境はない、と旧ソ連から鳥をゆずり受けます。

コウノトリの絶滅要因は、第二次世界大戦中、営巣に適した松が大量に伐採されたことや、戦後に農薬の使用でエサがなくなったことなどがあげられています。

それらの問題を克服し、繁殖成功後、2005年自然放鳥に成功。その後も順調に数が増えています。私が豊岡市を訪ねた時（2020年）には、驚くべき数のコウノトリが街のあちこちに飛んでいて私は息を飲みました。



圧倒的 生物多様性

コウノトリを野生復活させるために必要なのは、自然環境に餌場があることです。豊岡市では、まず田んぼの減農薬に踏み切りました。中貝前市長が力説したのは、ここでした。最初は、農家の大反対があり実行はなかなか難しかったそうです。

しかし農薬を使わなくなったことにより、田んぼに由来いた微生物、昆虫、カエルが生息できるようになり「圧倒的生物多様性」が戻ってきた。これらの生物が自然に相互作用を起こすことで、農薬に頼らずとも稲が育ち、何より健康的でおいしい稲を作ること成功。

何より、コウノトリの餌場が戻ったことでコウノトリと人間が共存できる社会になったのです。





米ブランドの成功



絶滅危惧種コウノトリを復活させた人にも優しいお米は、ブランド化にもつながり、高い付加価値をもたらしました。

人気米として海外にも輸出されていますが、豊岡市の小学校の給食にも使われています。まさに地産地消です！これは、小学生が市長のもとに訪問し、コウノトリ米を給食に使って欲しいという要望から実現したそうです。小学生が行政を動かすほど、コウノトリ米の経済効果は

支援の一環として、我が家も「ふるさと納税」で「コウノトリ育む米」を一年中食べています。

画像 <https://shopping.geocities.jp/>

ジェンダー

15 陸の豊かさも
守ろう



2 飢餓を
ゼロに



11 住み続けられる
まちづくりを



5 ジェンダー平等を
実現しよう



豊岡市では、「多様性を受け入れ、支えあうリベラルなまちづくり」を進めています。
「ジェンダーギャップ(性別に基づき定められた社会的役割、機会等の格差)の解消」が
大きな理念です。

前市長は豊岡市には若い人がおらず流出している、

街に魅力がない、女性の働き甲斐がない、ということを
危惧しており、主要ポストに女性リーダーを置くことを
推進してきました。文化の発信地である「城崎国際ア
ートセンター」は私が訪ねた時は、一度都市で就職したあ
とに地元へUターンしたという田口幹也さんが館長と平田
オリザさんが芸術監督を務めていらっしゃいましたが、
その後、女性がポストに就いています。お二人とも鳴り
物入りで館長、芸術監督だっただけに、そのポストを女
性に変更する豊岡市の試みを尊敬します。



画像 <https://www.kinosaki-motoyu.com/>



豊岡鞆

兵庫県豊岡市の通称「カバンストリート」にあり、地域ブランドとして商標登録を持つ豊岡鞆®（兵庫県鞆工業組合）は、「海を守る 漁網再生素材の鞆」の発売を始めました。

豊岡は「海の近く」にある「鞆の街」であるということを大切にしているそうです。

いま、世界中で大きな問題となっている海洋プラスチックごみ、世界全体で年間約800万トン、日本国内からは2～6万トン発生していると推計されています。また、日本の海岸に漂着している海洋ごみ（人工物）のうち、漁網・ロープが容積ベースで2～3割を占めています。（2016年・環境省、国内10地点での漂着ごみ調査）

そこで漁網を再生利用して鞆にする取り組みが始まりました。



画像： <https://shop.artisan-atelier.net/>

グリーン・デスティネーションズ



「グリーン・デスティネーションズ」という持続可能な観光地を認証する国際的団体があります。2021年、『持続可能な観光地 世界トップ100選2021』に豊岡市が選出されました。絶滅したコウノトリの野生復帰における持続可能な環境整備などが高く評価されたそうです。

日本からは阿蘇市など12か所が選ばれましたが、長年にわたる行政の取り組みが世界的に評価されたことは大きいでしょう。

豊岡市の取り組みはまだまだ続きます。

画像 <https://www.travelvoice.jp/>



地方創生提案

前市長を訪ねて私が豊岡市を訪ねたのは2020年でした。
自分なりの地方創生案はつたないものでしたが、市長は全部丁寧に対応してくださいました。
小学生の提案を聞いて、コウノトリ米を市の給食に導入する市長だけあって、子供の意見にも丁寧に対応してくださる姿に感銘を受けました。
田舎の無い私は、豊岡市を自分の故郷にしたいと考えたほどです。
なかなか訪問ができませんが、今後も豊岡市に貢献をしたいと心から考えています。



写真は私が作ったつたない
プレゼン資料の表紙です。



絶対的貧困

日本の相対的貧困を考えた時、もちろん世界における絶対的貧困を考えざるを得ませんでした。

ちょうどウクライナ紛争もあり、私は世界の紛争地域について調べていました。これは、今年9月に学校から機会を頂き、紛争地域についてプレゼンをした資料です。

正直、具体的になにか行動をしているわけではありません。JICAの催事などのお手伝い程度です。しかし、眼をそむけていないこと、こうやって発信する啓蒙活動も行動のひとつと思っています。

世界の紛争地域のために



ミャンマー支援について

自分の活動と今向き合っていること



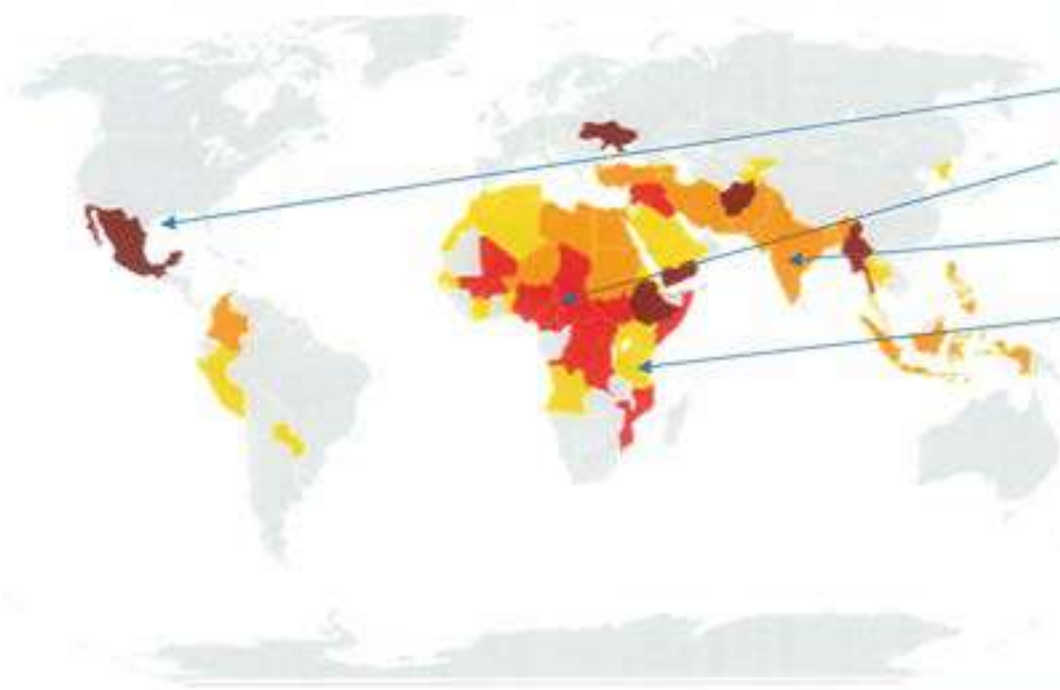
Japan International Cooperation Agency



毎年、外務省や国際支援団体が紛争地域や発展途上国を支援するために開催するグローバルフェスタのお手伝いをしています。今年は10月1日と2日に国際フォーラムで開催されました。



世界の紛争地域



紛争が進行中の地域

大規模戦争、今年または昨年に1万人以上が死亡

戦争、今年または昨年に1,000～9,999人が死亡

小規模紛争、今年または昨年に100～999人が死亡

小競り合い、今年または昨年に1～99人が死亡

近年、一年間に1万人以上死亡した国

1. アフガニスタン紛争



2. ミャンマー内戦



3. イエメン内戦



4. ウクライナ紛争



5. ティグレ

(エチオピア) 紛争



『「不全世界」 ミャンマーの真実』

9月25日、「不全世界、ミャンマーの真実」を書いた深沢淳一さんのセミナーに参加しました。それまで私はミャンマーについて何も知りませんでしたが内容は衝撃的なものでした。



主なミャンマーの歴史

イギリス領インドのひとつの州ミャンマーの歴史は複雑なので、ごく簡単にまとめました

イギリス領インドのひとつの州

→1937年 インドから独立

→イギリス連邦の自治領になる

→1943年 ビルマ義勇軍が日本と共にイギリスを排除しビルマ国建国

→連合国勝利で再びイギリス領に

→1948年 イギリスから独立

その後、内紛などで軍事クーデターが繰り返される

→民主化運動のアウンサンスー・チー軟禁

→1989年ミャンマー連邦へ国名変更

→2011年 新憲法で民主化が進む

→2021年 軍事クーデター

国民の抵抗

これはクーデター後、国軍が民間人を遅い、子供やNGO法人の社員もまきこんだ様子です。民間人も10万人規模で弾圧と闘っていますが、多くの犠牲者を出し続けています。



ロヒンギャ難民問題

ミャンマーは多民族国家であることから、イギリスから独立後、民族間の争いが絶えなかった国でもあります。135の民族のうち、ロヒンギャ族は弾圧され、難民になったことはみなさんの記憶に新しいと思います。国籍を与える案もありましたが、国内の反発があり実現していません。同じ国に住んでいるのに民族が異なると争いが終わらないのはなぜなのでしょう？



世界では、

過去最多の4億2,600万人、

5人に1人の子どもが

紛争地帯で暮らしています

ユニセフHP

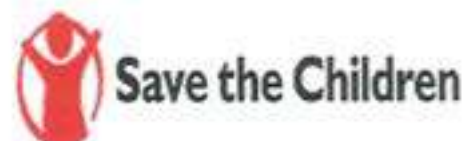


先日、たまたま自由が丘の駅で
ミャンマーの人たちによる街頭演
説を見ました。いかにミャンマー
国民が苦しんでいるか、内戦の長
期化で子供たちにも被害が及んで
いることを訴えていました。

ユニセフによると世界の5人に1
人が紛争地帯で暮らしているそう
です。



支援の仕方 献金？



支援の仕方について考えるとき、わたしたちはすぐ献金を考えると思います。わたしもどちらかといえばまず献金を浮かべます。
しかし、世の中には実に多くの団体があり、献金をしてもそれが正しく、必要な人に渡っているか不安になることはありませんか？

私の支援

わたしがセミナーに参加するまで全くミャンマーについて知らなかったように、まだまだ紛争地域のことで知らないことは多くあると思います。

従って、まず知る、ということが第一にあると考えています。



そこから必要な行動を考えるべきだからです。わたしは、昨年から外務省やJICAが支援するグローバルフェスタの手伝いに行っています。

そこには多くの紛争地域の出展もあり、各国の事情を知ることができます。なかなかその国へ行って支援というのが難しいため、献金だけでなくその国の商品を購入して資金づくりを支援することもアイデアのひとつです。わたしもミャンマー問題については、日が浅いのですが、これから活動の領域を広げていきます。

プラスチックから環境を守る



使用をしない



これを読んでいるみなさんは、既に「ペットボトル飲料は極力避ける、または飲まない」「使い捨てプラスチックカテラリーは使わない」などは実行していると思います。

実は前述の生理用品には大量のプラスチックが使用されており、海洋汚染の原因にもなっています。

私はなるべく水筒を持ち歩き、プラスチック商品は避け、エコバックを持ち歩き、生理用品もオーガニックのものしか使いません。

プラスチックファイターというHPにもそういったことが記載されており、参考になります。

<https://plasticfs.jp/>

マイクロプラスチック問題



今年5月の新聞によると、人類がプラスチックを大量に使用始めた1960年代からすでに、マイクロプラスチックによる環境汚染が始まっていたことがわかりました。

プラスチック本体だけでなく、そこに使われている糊など有害添加物も環境に影響を与えています。

魚介類がそれらを取り込み、世界各地の約半数の海鳥からプラスチックが検出されています。

中国では人体の便からマイクロプラスチックが検出されたという報告もあります。

ビーチクリーン



ビーチクリーンはマイクロプラスチックから環境を保全するのに有効な活動の一つです。一見きれいに見えるビーチでもよく見ると様々なゴミが落ちています。

11月にビーチクリーンに参加しましたが、その際、「ひとりひとりが集めるごみは少なくとも大勢が集めるとこんなに大量になる」というお話がありました。

この考えはすべてにあてはまります。ひとりひとりの行動は小さいかもしれませんが、みんなでやれば大きな活動になることは間違いありません。



砂をどうやって守るか



海岸浸食

14

海の豊かさを
守ろう



前回、私は「砂を守る」をテーマにしました。砂は、波でさらわれる他、気候変動による海面上昇や、高潮の影響、違法な採取などで失われていきます。

国土面積にも影響しますし、砂がなくなるため、海と陸の境目がなくなり、高潮の被害が起きやすくなります。

この砂の保全については、まだ着手ができていないため、活動を模索しています。またアップデートしたいと考えています。



わたしはなぜSDG s に取り組みたいのか

私は、当初はSDG s 活動は学びの一環でやってみたいという好奇心からスタートしました。

しかし、ヨットをやっている私は毎週のように海に行き、海がとても身近にあります。
拠点が2か所あり、東京湾と小網代でセーリングをしています。同じ神奈川県にもかかわらず海的环境が違いすぎるのがショックでした。

海を汚したのが人間であれば、海をきれいにするのも人間の責任だと思っています。



また、海だけでなく自分たちの住む地球を守りたいという気持ちから、環境保全だけでなく、貧困問題にも大きく興味を持っています。

画像：<https://www.ispa.jp/aboutus>



どういう行動をとるべきか

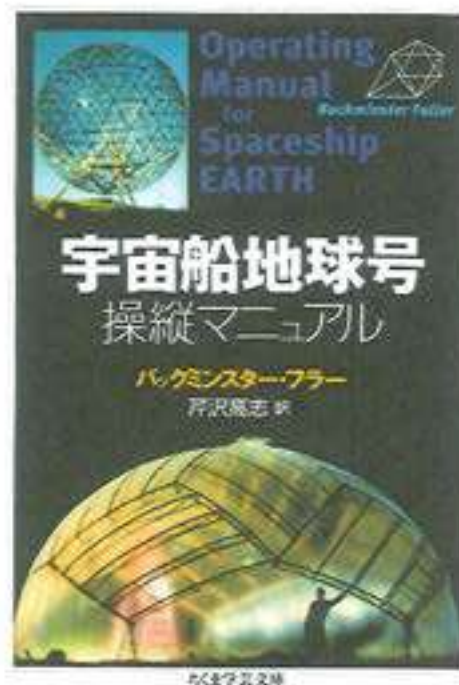
学びと啓蒙は大事です。まだSDGsのことを理解していない人は多いですし、わたしもまだまだ知らないことが多く学びが必要です。各地のセミナー、勉強会に参加したり、学んだことを継承していく啓蒙活動も必要だと思っています。共に行動できる人を募ることも重要です。

また日本だけでなく、国外の人たちと協力すること、共存することも重要です。海外の友達と情報を共有すると、共通点が多いことがわかります。



映像：<https://www.charityjob.co.uk/recruiter/think-global/15791>

地球規模で考える



私の所属するヨット団体（本拠地カナダ）は、「宇宙船地球号」という考え方を大切にしています。

地球をひとつの宇宙船ととらえるならば、限りある資源を協力して大切にしなければならないこと、人類は相互に共存しなければいけないことを知らないといけません。

これは私のSDG s 活動のバイブルです。

画像：アマゾン購入ページから抜粋

今回も最後までお読みいただきありがとうございました。
これからも活動に終わりはありません。

Thank you！！